

令和8年度 第2回白老町地域公共交通活性化協議会会議要録

議案第1号

白老町地域公共交通計画で定めた評価指標の達成状況及び評価・検証について

委員

・達成状況の目標対比増減の表記が%となっているが、pt（ポイント）ではないか。

（事務局回答）

・時期、評価検証の際に表記方法を検討したい。

委員

①ぐるぽんの利用者数の減少について、市街地循環便と萩野・社台便のどちらが減少要因として影響しているのか。

②公的資金の投入額については、目標値と実績値の比較だけではなく、経年的な実績を踏まえ、判断する必要があるのではないか。一時的な要因なのか恒常的な傾向なのか、それにより目標値の設定の考え方も変わってくる。

③路線の最適化等を検討するうえで、乗降システム等のシステム化・DX化は有効と考える。導入に際し、国庫補助等の活用について検討される場合はご相談を。

（事務局回答）

①令和7年4月1日のダイヤ改正において市街地循環便を16便から12便に減便している影響が大きいものと捉えている。

②年度によって突発的に経費が増加することもあるため、公的資金投入額の見通しは難しい面もあるが、目標値の設定根拠については次期検証の際の参考とさせていただく。

③新たなシステム等の導入やDXの推進に向けては、引き続きのご支援をお願いしたい。

委員

・アンケート実施について記載があるが、利用者から乗降時の道路構造上の課題につながる意見があれば情報提供して欲しい。

（事務局回答）

・道路管理に関する要望は特段ないが、今後そのような要望が寄せられた場合はご協力いただきたい。

副会長

・人口減少率が5%という結果を踏まえると、利用実績が2年前とほぼ同水準を維持していることは取組の成果が現れていると考える。

・元気号の増加要因として挙げた「ニーズに即したダイヤ改正」、「勉強会等

の利用促進策」、「インバウンド需要の影響」のうち、何が一番影響したのか。
今後、運行形態の最適化等を図っていく上で、この要因を明確に捉えておく
と、今後の施策決定の際に検討しやすくなると考える。

(事務局回答)

・明確な要因は掴めていない。ダイヤ改正や利用促進策が功を奏したものと
考えたいところではあるが、肌感覚的に、インバウンド需要が一番大きく影
響していると捉えている。正確な実態把握に向けては、乗降調査システム等
の導入を検討したい。

委員

・虎杖浜地域は近隣に登別市の病院やスーパーがあるが、ニーズ等をどのよ
うに整理しているのか。

(事務局回答)

・虎杖浜の方々の生活圏は登別市となっており、延伸を求める声をいただく
が、地域間幹線系統が運行されている点や、行政区域を跨ぐ点などから、現
実的な話ではないと捉えている。
・民間事業者等が運行する循環バス等を活用し対応していきたい。

議案第2号

地域循環バス「元気号」の改正（案）について

議案第3号

交流促進バス「ぐるぽん」の改正（案）について

議案第4号

デマンドバス「カムイ号」の改正（案）について

委員

・議案第3号について、社台駅を廃止としているが、資料「議3-1」の下段に
おいて、「社台駅はぐるぽん（萩野・社台便）のみで停留所設置」という文言
があるが、どちらかが誤りということか。

(事務局回答)

・誤解を招く記載方法となり申し訳ないが、資料「議3-1」下段に記載してい
る意味合いとしては、「社台駅はこれまで、ぐるぽん萩野社台便でのみ利用さ
れていた停留所であるため、廃止をしても他の交通に影響はない」といった内
容となっている。

委員

・ぐるぽん改正内容について、改めて詳細を示してほしい。

(事務局回答)

・現行の萩野社台便は社台駅を廃止、要望のあったラッキーマート前を新設す
ることで、買い物需要にも対応できるよう、火～木曜の運行としている。金～
日曜と祝日については、萩野社台便と新たに設定する「虎杖浜ウポポイ便」を
織り交ぜた形での運行としている。交流促進バスとして、虎杖浜への延伸はか

ねてから検討していたところであるが、運行委託先との調整の結果、まずは虎杖浜地区の温泉宿泊施設のチェックイン、チェックアウトのニーズに応えられる形での改正としている。

委員

・社台駅はぐるぽんの廃止により、他の交通も完全に利用しない形という認識でよいか。

(事務局回答)

・その認識で問題ない。社台駅については利用実績がないほか、デマンドバスの利用区域であることから、ぐるぽんについては廃止としている。

副会長

・いずみ前まで延伸した場合、所要時間の増加など、現行の運行と比較してデメリットが生じる可能性はあるか。

・ダイヤ改正後の事後評価、モニタリング調査が最適化を図っていく上で重要となる。

(事務局回答)

・所要時間が伸びるものの、デメリットが極力少なくなるような運行形態としている。

・乗降調査システム導入の検討含め、事後評価、モニタリング調査を進めていきたい。

以上